

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兔和野高原野外教育センター	現指定管理期間	令和4年(1年間)
指定管理者	香美町	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	①宿泊施設内等の日常清掃の実施する ②日常清掃の他に退所時の点検・清掃を徹底して実施する ③除菌清掃を実施する	①宿泊施設内等の日常清掃を実施した ②特に退所時の点検・清掃を徹底して実施した。 ③部屋、トイレ、食堂、浴室等の除菌清掃を実施した	◎	◎
	設備保守管理	①安全な施設、設備の維持管理に努める ②水道、消防、電気設備など法定検査を実施する	①②各種法定点検実施のほか、設備維持のため専門業者による設備点検やメンテナンスを年1回以上実施した	○	○
	植栽管理	エリアごとに担当を設け、計画的に草刈・芝刈り・除草・枯死木の伐倒等を実施する	①シルバー人材センターより地元場内作業員を雇用し、草刈作業を実施した ②樹木医によるお手植え木診断と処置を実施した ③職員による枯死木伐採、森林整備を行った	○	○
	警備	<宿泊利用者がいる場合> 宿直代行員を配置する <宿泊利用者がいない場合、木の殿堂> セコム株による夜間の機械警備を実施する。日中は利用者がいなくても1名以上の職員を配置する	<宿泊利用者がいる場合> 宿直代行員を配置し、電話対応や緊急時に備えた <宿泊利用者がいない場合、木の殿堂> セコム株による夜間の機械警備を実施した 日中は利用者がいなくても1名以上の職員を配置した	○	○
	小規模修繕	①小規模かつ緊急の修繕については、指定管理料から予算執行する ②高額な修繕は所管課と協議する	①小規模かつ緊急の修繕については、指定管理料から予算執行を行った ②高額となる施設設備の修繕については所管課と協議し、予算要求を行った	○	○
	法定点検の実施	水道設備、浄化槽、消防設備、電気設備、公用車、昇降機など法定検査を実施する	専門業者に委託し、全ての法定点検をクリアした	◎	◎

運営業務	開館日・開館時間等	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 定休日なし (12/31~1/3 休館日) 開館時間 9:00~21:00 < 木の殿堂 > 月曜日定休日 (12/31~1/4 休館日) 開館時間 10:00~16:30(冬期 16:00)</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 定休日なし (12/31~1/3 休館日) 開館時間 9:00~21:00 < 木の殿堂 > 月曜日定休日 (12/31~1/4 休館日) 開館時間 10:00~16:30(冬期 16:00)</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<p>① 設置管理条例に基づき利用者受け入れを行う ② DM 発送、HP での告知などで広報を行う</p>	<p>① 予約受付の混乱を避けるため、利用団体により時期をずらして受付を行った ② DM 発送、HP での告知などで広報を実施した</p>	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 施設の特長を生かし、各種主催事業を実施する < 木の殿堂 > 入館者増につながる特別企画展、創意工夫し手作り教室等を実施</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 「夏の親子キャンプ」等計14事業を実施した < 木の殿堂 > 特別企画展13事業、手作り教室16事業、ふれあいの森活動を8事業を実施した</p>	△	△
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	<p>団体利用者を対象にアンケートを実施する</p>	<p>団体利用者を対象にアンケートを実施した。職員の対応については約 98%の利用者から「満足」との回答を得た</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 延べ 26,800人 [前年度:12,560人] < 木の殿堂 > 入館者 25,000人 [前年度: 7,582人]</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 延べ 23,372人 < 木の殿堂 > 入館者 10,030人</p>	△	△
	施設稼働率	<p>① 施設稼働率の向上を図る ② 入館者増の取り組みを行う</p>	<p>① 新規利用者の獲得を図るため広報に努めた 但馬地域以外の自然学校を誘致した ② 新規来館者・リピーター確保のため、バラエティに富む特別展示を実施した</p>	△	△
収支状況	収支計画と実績	<p>人件費の高騰を緩和するため、人員を削減し管理運営費の改善を図る</p>	<p>利用者減のため、会計年度任用職員(スポット)1名の削減、職員の超過勤務の抑制を行った</p>	○	○
	経費節減に向けた取組	<p>光熱水費等経費削減に向けた取り組みを行う</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大、暖冬による雪不足等によるキャンセルの影響で、燃料費・光熱水費を削減した</p>	○	○
運営体制	<p>苦情要望等の対応体制・内容</p>	<p>利用者からの要望の把握と対応</p>	<p>利用者からのアンケートや聞き取りにより、要望に応える小規模修繕や快適な施設提供に努めた。</p>	○	○

危機管理体制の確保	①災害時等緊急マニュアルの作成 ②夜間緊急時の召集体制作り ③新型コロナウイルス感染対策	①災害時等緊急マニュアルを作成し、訓練を年2回実施した ②夜間緊急時の召集体制とマニュアルを作成した ③感染者が出た場合の対応について協議し実施した	○	○
県・関係機関との連携	①兵庫県、関係機関との連絡・連携 ②香美町・関係機関との連携	①兵庫県、関係機関との連絡網・連携体制を作成した ②香美町各課、教育委員会、関連施設と連携を行った	○	○
業務の再委託の状況	職員では実施困難な業務について、専門業者へ業務委託を実施する	法定点検の必要な業務、定期的な管理が必要な業務を中心に、専門業者へ委託業務を実施した	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<総合的な自己評価>

コロナ禍において人数制限、団体などの出控えなどがあり、可能な範囲で受け入れを行った。感染予防対策や感染者対応等できる範囲で実施した。実績の上ではR3年度よりは増加したが、キャンセル・人数制限があり目標に届かなかった。

<来年度の取組目標>

【ポストコロナでの受け入れ】

引き続き感染対策を図りつつ、利用団体受け入れ条件を解除し運営を行っていく。主催事業においても通常定員に戻して実施する。コロナ禍で利用の増えたオートキャンプも、学校利用のない土日を中心に受け入れを行う。

【自然学校の受け入れ拡充】

R4年度旧豊岡市内の自然学校、更にR5年度より全県より新規自然学校が増え、5月～7月中旬と9月～11月中旬にほぼフルで自然学校の予約を受けている。安全、安心な利用はもちろん、各学校の狙いに沿った自然学校になるようサポート体制の充実を図る。

【地域連携の拡充】

これまでの取り組みに加え、山・川・海の施設連携など更に地域の団体や施設との連携を図る取り組みを推進する。

【指定管理者の更新について】

R5年度からR7年度まで、引き続き「香美町」が指定管理者に指定された。今までの取り組みに加え、更なる利用者拡大、魅力ある施設づくりを行っていかねばならない。

<課題>

【老朽化施設の修繕】

R2年度の計画修繕工事の対象外となった屋外施設、キャンプ場等の老朽化が目立つ。緊急性・危険性のある個所については小規模修繕を実施し、大規模なものは引き続き所管課と協議をしながら修繕を進めていきたい。

【お手植えの木の管理】

全国植樹祭から29年を経過し、害虫や菌の侵入により樹勢が弱っている木もある。樹木医による診断や処置を行っているが、根本的な解決には至っていない。今後、財源を含めどう維持管理していくか課題である。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立兎和野高原野外教育センター	現指定管理期間	令和4年(1年間)
指定管理者	香美町	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用料金収入については自然学校受け入れにより増加している。稼働率は、依然として低いままである。

施設維持管理業務としては、敷地が広い施設であるが、委託業者と職員が連携しエリアごとに担当を決めるなど、計画的に草刈りや除草を実施することで、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数において、昨年度より増加しているものの、新型コロナウイルス流行前の水準には回復していない状況である。来年度以降は規制もなくなるため、今年度反響のあった自主事業内容を更に工夫し、自然学校利用者とバランスをとりながら、利用者の満足度を向上させる取り組みに努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立文化体育館(神戸常盤アリーナ)	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	定期清掃、清掃箇所の優先順位等のマニュアルを基本として実施しており、必要があれば臨機応変に対応する。これにより、施設の美化及び利用しやすい環境、利用者満足の上昇に努める。	日常清掃は、障がい者自立支援事業との連帯協力に加え、休館日を利用した定期清掃を計画通りに実施した。イレギュラーな課題については、作業シフトを見直し対応した。	◎	◎
	設備保守管理	日々の施設巡回、法定点検、保守点検を確実にを行い、施設の安全を保つことにより、利用者の皆さまに安心して利用していただける環境を維持する。	点検による不備、不具合箇所の一覧表を作成し、緊急度、経費といった項目を総合的に判断して優先順位をつけて実施。一覧表については、月次報告として提出した。	○	○
	植栽管理	植栽の定期的剪定、施設内外の美化に努め、景観を含めて利用者、地域住人が快適に過ごせる環境づくりを実施する。	施設スタッフが、休館日、空き時間を利用して、剪定作業を行った。雑草除去等については、障がい者雇用メンバーが実施した。	◎	◎
	警備	館の警備は機械警備にて実施、火災関連については火災報知器を設置、緊急体制、連絡体制を確立する。施設スタッフによる敷地内巡回を行う。	セコム警備保障による館全体(駐車場含む)の機械警備を実施した。防犯カメラも作動しており、録画の確認が可能。スタッフによる巡回も実施した。	○	○
	小規模修繕	設備従業員による日々の巡回点検等で、不具合発生時迅速に対応する。	設備スタッフが施設を巡回し、不具合を発見した場合は修繕を行った。スタッフでの修繕が不可能な場合は、専門業者に修理を依頼した。	○	○
	法定点検の実施	法令に則って実施する。	法令に則って実施。	◎	◎
運営 業務	開館時間 9:00-22:00 * 日曜日は 9:00-21:00 休館日 毎月第1月曜日 * 祝日の場合は翌日 年末年始 12/29-1/3 * 変更の場合あり	利用者の安全を優先して、左記のとおり運営した。	◎	◎	

	公共性・公平性の確保	老若男女、ハンディキャップ、職業、国籍、LGBT などに関わらず、誰もが生き生きとスポーツを楽しむことができる施設を目指す。	県の条例に則り、公共性・公平性を持って運営した。サイネージによる利用状況を案内した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	貸館業務を優先し、講座の運営は一般利用者の妨げとならないようにする。共同体の個性を生かした自主事業を積極的に展開する。	募集講座数＝105 講座で開講。講座受講総数＝43,608 人となり、前年対比 148.6%の伸長となった。閉館による休講期間のないスポーツ講座は前年対比 119.7%の伸長。3 年ぶりの「震災祈念コンサート」、「音楽の集い」を開催。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートの結果に基づき、可能な案件から対応する。	約60件のご意見を回収。別紙の通り、可能な案件から随時対応した。	○	○
利用状況	利用者数	全体的な利用者の拡大と並行して、個人利用、専用利用、各種講座それぞれで目標管理を行う。 [前年度: 208,166 人]	今年度実績 517,158 人 個人利用 101,005 人 専用利用 372,545 人 講座 43,608 人	○	○
	施設稼働率	一般利用と講座運営のバランスを十分に配慮し、施設全体の稼働率向上を目指す。 [前年度(本館): 33.8%] [前年度(スポーツ館) 85.0%]	今年度実績 本館: 40.0% スポーツ館: 82.7% コロナの影響が完全に拭えてはならず、稼働率に影響した。	○	○
収支状況	収支計画と実績	収支予算案に基づいた、施設管理運営を行う。	R4 指定管理料 150,487 千円 利用料金収入 63,639 千円 受講料収入 40,138 千円 自主事業収入 697 千円 自動販売機収入 3,017 千円 駐車場収入 16,187 千円 物販販売手数料 3,379 千円 ネーミングライツ 3,023 千円 計 280,567 千円	○	○
	経費節減に向けた取組	水光熱費の削減に取り組む。電力会社の変更による基本料金の削減。	水光熱費削減に取り組むも、値上幅が大きく、予算との差異が発生した。しかしながら、電気料金をゼロワットパワーへ変更したことによるメリットは出せた。基本料金として、130 千円/月の削減。	○	○

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者アンケートの実施と、「お客様の声 BOX」を設置して、迅速かつ誠意ある対応を行う。	アンケート等とは別に、電話等によるお申し出についても対応した。 給湯室の配管貫通工事を実施し、利用可能とした。転倒防止対策として、アスファルト再舗装を実施。駐車区画の白線を再塗装。	◎	◎
	危機管理体制の確保	平常時、緊急時それぞれにマニュアルを制定し実行する。	コロナウィルス感染対策を実施した。 年2回消防訓練として、AED・消火器の使い方、避難訓練を実施した。	○	○
	県・関係機関との連携	指定管理受諾者として、各種関係機関と緊密に連絡を取り合い、常に情報を共有する。	情報共有として、県担当部署と緊密に連絡を取るようしている。長田警察署と連携して、交通安全のシュミレーターを設置。県や近隣の学校と連携し、各種イベントを開催。	◎	◎
	業務の再委託の状況	共同体内で管理運営業務を完結する	指定管理業務に関しては、共同体で完結しており、再委託は行っていない。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

新型コロナウイルスの感染拡大防止をしながら、1年間を通じて、大きな事故も無く、概ね順調な運営ができたものと思われる。

コロナ対策と並行して、アフターコロナを見据えて大規模なイベント（音楽の集い、震災祈念コンサート、健康文化フェスティバル等）を開催できた。

来年度の取組目標については、兵庫県で初めて導入される「講座予約システム」を県と共同での開発、運用を行い利用者の利便性向上を目指します。

来年度の課題としては、施設の老朽化に伴い、経年劣化による修繕等が判断されている案件に対して、どのように安全性を確保して運営を継続するかという点が最大の課題と認識している。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立文化体育館	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

運營業務において、利用者数は昨年度の2倍以上まで上昇した。しかし、新型コロナウイルスの影響により、流行前と比較すると減少したままであった。

施設維持管理業務においては、委託業者と職員が連携し清掃にあたるとともに、設備職員が日々の巡回点検を行い、不具合に早急に対応するなど利用者の安全を優先した取組をしている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数において、新型コロナウイルス流行前の水準には回復していない状況であった。しかし、昨年度に比べ利用者数は大幅に増加しており、来年度以降はアフターコロナに対応し、今年度反響のあった事業内容を更に工夫するなど、利用者人数等の回復に努めてもらいたい。

利用者からの意見について、随時対応を行っている最中だが、未だ利用マナー等対応が必要な意見がみられるため、利用満足度を向上させる工夫に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立武道館	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会武道館グループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	日常清掃・定期清掃により常に清潔な環境が保たれるよう清掃作業に当たる。また、道場床・畳面も、水拭きや清掃を行う。	清掃業務委託により効率的に清掃を行っており、業務委託範囲外は職員が見回りを実施。アンケート調査結果においても、「行き届いた清掃ができています」といった意見を多数いただいた。	○	○
	設備保守管理	当館には、機械空調設備、床転換システム、大型映像装置、畳自動倉庫、可動間仕切り等多くの大型設備について、効率的な維持管理を行う。	業者との保守委託契約により、仕様書に基づき効率的に定期保守点検を行った。さらに、職員による日常点検により、適切な維持管理を行った。	○	○
	植栽管理	広範囲の敷地内の植栽・庭園の管理を行う。	仕様書に基づき、植栽の管理を適正に行った。	○	○
	警備	開館時間中は職員による巡回励行、閉館後は機械警備を行い、常時監視カメラによる警備を行う。	開館時の利用者の安全・安心の確保のため「巡回確認票」を設け定期的な職員巡回の実施、夜間や休館日には飾磨警察に巡回を依頼するなど館の安全体制が図れた。	○	○
	小規模修繕	経年劣化により、設備・備品の修繕が増えてきているため、適切に小修繕を行う。	R4年度は、県教委との協議により、2件 2,048千円の修繕を行うとともに、3,088千円をその他の小規模修繕として実施した。経年劣化により、小修繕件数は増えてくる事が予想されたが、日常的に館内を巡回し問題箇所の早期発見を行うと共に、適時に小修繕を行って利用者サービスに悪影響がないようにした。	○	○
	法定点検の実施	法定点検ほか、職員による施設、設備、備品の安全点検を励行し、利用者の安全確保を図る。	日常点検と月1回の定期点検により、不具合箇所の早期発見と小修繕による対応が図れた。	○	○

運営業務	開館日・開館時間等	12/28～1/4 の年末年始休館を、12/29～1/3 とする。学校長期休業期間中の月曜日は開館し、また、利用者の要請を受け臨時開館・早朝開館を実施する。	12/28 を開館すると共に、学校の春季、夏季、冬季休業期間中の月曜日は開館し、また大会等開催のため、早朝開館を 27 日間行った。大会等では利用者からの希望に応じ利用者のニーズに応えることができた。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	予約管理業務においては、公平性・公共性を重視し、各武道団体と連携を図りながら利用調整を行う。	各武道団体と連携しながら、大会規模や公益性を考慮しながら利用調整を適切に行うことで、館の効率的な利用が図れた。また、トレーニング室利用についても、シンコースポーツとの定期的な打ち合わせにより公平に利用できるよう配慮した。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	各武道団体との連携のもと各種武道教室や日本の伝統文化をコンセプトにした事業を展開。トレーニングルームでは、多彩なプログラムメニューを準備。	武道教室をはじめトレーニングメニューは利用者から好評を得た。守るべき伝統文化としての武道の普及と、時代に合わせて変化させる各種教室のプログラム内容。この両輪を共同体のシンコースポーツなどと併に上手く展開することができた。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートによる利用者満足度調査を行い、調査結果を館内で公表するとともに、利用者のニーズを吸い上げ今後の館運営に生かす。	アンケートの結果、230 人の意見を集約出来た。調査の結果、館全体の印象において、不満又はやや不満の意見は 3%に留まり、71%の利用者に満足・やや満足といった高い評価を受けた。	○	○
利用状況	利用者数	R4 年度当初目標利用者数 337,000 人を旨す。 [前年度:252,899 人]	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、R3 年度までは利用者人数が大幅に減少したが、R4 年度は 351,926 人の利用者があり、当初目標を上回った。	◎	◎
	施設稼働率	道場は平日午後の稼働率が低いので、利用促進を図る。会議室等諸室の稼働率は向上しているのを継続させる。 [前年度:59.4%(道場)]	新型コロナウイルス感染症のため、影響を受けたが、道場の稼働率は 62.7%となった。	○	○
	収支計画と実績	収入・支出共 R4 年度計画 186,963 千円	実績 収入 188,774 千円 支出 188,774 千円 効率的な管理運営により、支出削減を図ることができた。	○	○

収支状況	経費節減に向けた取組	適正な冷暖房温度設定の維持。利用後の道場照明のこまめな消灯を行う。	光熱水費や消耗品等の節減に努め、収入の落ち込み以上に支出を押さえることができた。 職員全員がコスト削減意識の取組を行う事により、よりいっそうの経費削減に取り組んだ。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者から寄せられる様々な苦情要望に対しては、迅速かつ適切に誠意ある対応を行う。	利用団体に対し、利用前後の打ち合わせ実施等で利用者とのコミュニケーションを図ったり、巡視を行うことにより、トラブルの未然防止と事案確認、再発防止を図ることができた。 利用者満足度アンケート調査においても、職員の接遇について、75%の利用者から「満足した」、「ほぼ満足」との評価を得た。	○	○
	危機管理体制の確保	緊急時に備え、危機管理マニュアルを整備し、職員研修等で職員が内容把握しておくことで、迅速かつ的確な対応を図る。	日常的・定期的に職員及び委託業者が館内を巡視し、利用者の安全確保及び施設・設備に問題が無いかを常にチェックし保全に努め、職員研修の際にも危機管理について多くの時間を割いている。今後も警察・消防署等と連携を深めながら、危機管理体制の確保に努めた。	○	○
	県・関係機関との連携	館の円滑な運営には県や市等関係機関との連携が不可欠であるため、連携体制を構築する。	県や市との連携はもちろん、日本武道館との共催事業の実施、地元の大学とは事業協力関係などを構築。	○	○
	業務の再委託の状況	専門性のある業務について、再委託を行う。	PC・HP 保守、予約管理システム保守管理については、再委託を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・新型コロナウイルス感染症もほぼ収束したなかであるが、感染防止対策を実施した上で、従来の貸館、自主事業の武道教室等の充実を図り、施設利用者・使用料収入の確保する。また、令和4年度は、毎年開催していた「武道祭」を武道競技団体等の意見を踏まえ、多数の方が参加できる体験型のイベントに見直し実施したが、非常に好評だったことから令和5年度も同様に実施するとともに、内容を再検討し、新たな取組も模索する。

・姫路市まちづくり振興機構と緊密な連携を図るとともに、当該イベントに参加して武道振興に努める。

・施設維持管理業務においては、職員による日常清掃、設備点検、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行い。また、施設運営の状況を的確に把握し、職員による日常的な部品交換や計画的な小修繕に取り組み、事故のない施設運営を継続して実施する。

2 課題

・施設・設備の老朽化対策について

開館後20年を経過し、施設の至る所で老朽化が見られるため、兵庫県教育委員会と協議しながら施設・設備の改修、修繕を実施する。(令和5年度計画修繕予定)

・利便性・サービス向上について

全国でも珍しい、武道の普及・振興のために設置している「展示・情報コーナー」は、開館当時のOA機器を利用しており、収蔵しているビデオについてもVHSであり、現代のニーズに合っていないことからリニューアルが求められている。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立武道館	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会武道館グループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

運營業務においては、利用者からのニーズに応じ利用時間延長・臨時開館を行った。しかし、利用者数及び利用者稼働率等は新型コロナウイルスの影響により、流行前と比較すると減少したままであった。

各種事業においては、柔道・剣道等の各種武道教室に加え、日本文化を体験できる講座を開設するなど、施設の設置目的を踏まえた事業を実施しており、利用者の方々に満足していただいている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

施設維持管理業務においては、委託業者と職員が連携し清掃にあたりとともに、年数回の設備保守点検に努めており、老朽化に伴い、利用者の安全を優先した修繕を行うなど安全性の確保にも努めている。令和5年度から計画修繕工事が予定されているため、更なる安全対策に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 4 年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立総合体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	ひょうごスポーツライフグループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物を常に清潔な状態に維持し、快適性を高めるため日常清掃・定期清掃・臨時清掃を計画的に実施する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当者を適正に配置し、管理水準に沿った業務を遂行した。また、建物全体の窓ガラス清掃及び各体育室の床におけるワックスがけを臨時で行った。 ■ 管理水準書に沿った実施を行えた。水準にはないが定期清掃として3～6階部分の窓ガラス清掃も実施した。また、コロナ対策として、利用者の貸出備品使用后、備品の消毒も常に行っている。 	◎	◎
	設備保守管理	電気・水道・消防設備、浴室管理、体育施設及び備品、研修・宿泊施設などの点検並びに修繕の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点検保守を適切に行った。水質維持に不可欠な濾過装置の入れ替えなど、保健所の指導を受けないような事前措置を実施できた。 ■ 大きな事故もなく、ご利用者様からも好評の声を多くいただけている。体操部品については段違い平行棒を現行ルール対応物に交換し、格技室 A の床の凹み対応も早急に行った。 	◎	◎
	植栽管理	施設内の草刈り、高木の剪定、雑木の伐採	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設職員等によって随時草刈りの実施した。 ■ 整った状態を維持できており、手入れも通常対応で充分であった。 	◎	◎
	警備	利用者の安全を第一に考え、施設内外の安全確保と危険予知・早期発見に努める	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の要所に設置した12台のカメラにより 24 時間監視を行うとともに、夜間・休館日は自社の警備員を配置し、施設・利用者の安全確保に努めた。 ■ 熟練された警備員の配置を行うとともに、事務所スタッフの安全研修の数を行ったことで、事故等の対応が素早くなった。 	◎	◎

	小規模修繕	機能、性能の劣化を踏まえ、修繕計画の策定及び早期に対応策の検討を行い、必要な修繕については速やかに実施する	<p>■各種劣化による部品交換等の修繕を多く行った。耐用年数を整理し、先回り点検も並行して実施した。</p> <p>■本社の専門スタッフが修繕計画を策定し、計画的かつ迅速な補修・修繕を行い、より安全に使用することが出来る状態になった。</p>	◎	◎
	法定点検の実施	年間作業計画書通り実施した	<p>■計画書の通り実施を行った。</p>	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	休館日：月曜及び 12月28日～1月4日	<p>■計画書の通り</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	利用するすべての人が困難なく快適に利用できる仕組みづくりやスタッフへの教育を徹底することで「公」を確保する	<p>■大会等の優先予約に関しては幅広くご希望をお聞きし、重なる部分に関しては抽選（本年度は3回実施）とした。</p> <p>■平等利用の確保に努め、利用者同士の情報交換も促すことで、抽選結果の納得感を得ることが出来た。</p>	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	県民のスポーツの振興及び健康増進を図り、様々なライフステージに合わせた多種多様な事業プログラムを企画・運営する	<p>■講座事業、サマースクール、走り方教室等、ケンソウ杯、クリスマスイベント、しめ縄づくり、県総ロゲイニング、無料開放等、終活セミナーなど多種多様な事業を行った。</p> <p>■例年のイベントに追加し、終活セミナー・投げ方教室・ロゲイニングイベントなど新規イベントや新規教室など開催し利用者満足度の向上に貢献した。</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果（アンケート調査）	宿泊利用者や自主事業参加者にアンケートを実施し、利用者及び参加者のニーズ把握に努める	<p>■ご意見箱の常設を行うとともに、宿泊利用者からは通年のアンケートを、自主事業参加者にはその都度アンケートを取った。</p> <p>■特にスタッフ対応に好評を得ることができています。また、いただいたご意見へのお返事を掲示することで、コミュニケーションを図れた。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	令和3年度実績 230,415人	<p>■令和4年度実績 381,295人</p> <p>■新型コロナウイルスの影響での人の生活リズムが変わる中、前年度と比べ人数は上昇傾向にある。来年度もさらなる人数上昇に向けて事業・広告面を強化していく。</p>	○	○

	施設稼働率	令和3年度実績 体育室 86.0% 格技室 61.5% 研修室 12.8% 宿泊室 4.8%	<p>■令和4年度実績</p> <p>体育室 86.7% 格技室 66.6% 研修室 16.0% 宿泊室 15.9%</p> <p>■前年度に比べ各部屋の利用率は上昇した。来年度はさらなる上昇を目指し新規利用者を獲得する事業などを展開していく。</p>	○	○
収支状況	収支計画と実績	前年収入計：164,871 千円 (うち利用料金収入 27,368 千円) 支出計：171,432 千円 収支＝-6,561 千円	<p>■今年収入計：163,258 千円 (うち利用料金収入 36,893 千円) 支出計：170,340 千円 収支＝-7,082 千円</p> <p>■支出を前年度額より抑え、利用料金を 9,000 千円上昇させましたが、原油高の影響(光熱水費の高騰)・隣接施設のアイスアリーナの臨時休業(約3か月程度)により駐車場収入が大幅に減少した影響により赤字決算となった。</p>	△	△
	経費節減に向けた取組	節電、節水などの利用者への啓蒙、老朽部分の修繕による、経費の節減対策、節水装置の導入	<p>■軽微な修繕は積極的に職員で行った。また、水道光熱に関しては業者と密に連絡を取り、より削減できる契約方法を探った。</p> <p>■節水器具を付けたことによる水道代の減少、LED化による電気代の減少対策を行った。</p>	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情要望等について、速やかな改善・対応を行うとともに、速やかな対応が難しい事案については県と協議・検討を行う。	<p>■ご意見箱に届いたものは翌日対応、回答を館内に掲示した。アンケートによるご意見等に関しては館内で対応協議後、一覧にして館内掲示した。</p> <p>■ご意見に対し、目に見える形で対応させていただいたことで、ご利用者様より信頼をいただけていることを実感した。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルの策定及び緊急時の連絡・対応体制を構築する。	<p>■危機管理マニュアルを策定するとともに、緊急時等における危機管理体制を構築した。また、消防署と連携し、消防訓練を行った。</p> <p>■各所での連絡体制は常に更新し、各担当者が責任をもって報告まで行っている。また本社警備部と連携し、夜間等の危機管理体制も構築した。</p>	◎	◎

	<p>県・関係機関との連携</p>	<p>報告・連絡・相談を密にし、連携体制を構築する。</p>	<p>■管轄の鳴尾消防署、甲子園警察署、兵庫県教育委員会などと連絡を密にし、情報の共有に努めた。 ■各種報告書は発生当日の簡易報告と、後日原本を手渡しで持参することを心がける連絡体制をとった。</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>
	<p>業務の再委託の状況</p>	<p>関係法定等に基づく法定点検や精密検査、特殊点検など、専門的な技術を要する業務については委託を行う。</p>	<p>■作業計画書通り作業を行った。</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

利用者視点での運営を心がけ、細やかなニーズの汲み取りおよびその迅速な対応を継続することにより、前年度に比べ来館者数の増加に繋がったと考えます。原油高の高騰等の影響で赤字決算となったが、人数、収入共に増加していますので引き続き次年度も更なるサービス向上に取り組み運営を行っていきます。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立総合体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	ひょうごスポーツライフグループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用者稼働率等については昨年度に比べて上昇した。しかし、隣接施設のアイスアリーナ臨時休業の影響により駐車場利用料金が目標に比べ大幅に減少した。

施設維持監理業務においては、老朽化が進む中、職員による日常清掃、植栽管理、警備に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数において、昨年度より増加しているものの、新型コロナウイルス流行前の水準には回復していない状況である。引き続き利用者ニーズに応じた新規事業を検討するなど、利用者数等増加に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	A	S		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	4月～3月(週2回)	計画通り実施(シルバー人材センター)	◎	◎
	設備保守管理	業務委託を実施	北播磨臨海建設事務所と共同実施	◎	◎
	植栽管理	管理棟及び施設内の植栽管理	シルバー人材センターに依頼すると共に職員により随時実施	◎	◎
	警備	職員による巡回及び夜間における機械警備	開館時間:職員による巡回 閉館時間:警備会社に業務委託	◎	◎
	小規模修繕	随時実施	救助艇修理・レンタル艇修理・散水	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備点検	北播磨臨海建設事務所と共同実施	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	ニーズに合わせて延長や臨時開館	シーズン中の土日祝の開館時間の繰上、自然学校での臨時開館、行事等での早朝開門や閉館時間の延長を実施	◎	◎
	公共性・公平性の確保	利用者安全確保と適切な貸艇整備	専門職員により貸艇を整備	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	子供から大人までのそれぞれの技術目標に応じた講習会を実施	利用者のレベルに応じた講習を実施した。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	講座受講生にアンケート調査を実施	施設等の老朽化の問題はあるが、内容については概ね満足の結果であった。	◎	◎
利用 状況	利用者数	52,481 [前年度:44,237人]	自然学校の利用が増加したため、昨年より比118%であった。	◎	◎
	施設稼働率	学校利用の増加により、貸室の稼働率を上げる [前年度:研修室7.9%]	学校利用が増加し、稼働率も向上した。例えば、研修室11,6%(3.7%向上)	◎	◎
収支 状況	収支計画と実績	利用料金収入見込 19,519千円 指定管理収入見込 29,104千円 自主事業収入見込 5,113千円	利用料金収入 17,123千円 指定管理収入 29,104千円 自主事業収入 4,501千円	△	△
	経費節減に向けた取組	支出費用の削減	空調管理や光熱水費の削減に努めたが、光熱水費単価が高騰したため、昨年度より増加した。	○	○

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の要望を取り入れて、対応し、苦情を未然に防止する。	利用者の立場に立った運営を心掛けた結果あまり苦情はなかった	◎	◎
	危機管理体制の確保	安全マニュアルの作成と救助訓練の実施	長年の経験からあらゆる事故を想定し、救助訓練を実施し、日ごろから危機管理体制づくりを行った	◎	◎
	県・関係機関との連携	自然学校・課外授業の受け入れ	阪神教育事務所や各学校との連絡を取り、自然学校・課外授業をニーズに合わせ、受け入れた	◎	◎
	業務の再委託の状況	消防点検等の設備管理業務を播磨臨海建設事務所と共同で実施するほかゴミの回収やトイレ清掃、機械警備を委託した	計画通りに実施した	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

事業計画に沿って、安全・安心な施設づくりを行い、自主事業も順調に実施でき、利用人数も前年度より増加した。アンケート結果からもおおむね好評価を得ることができた。

しかし、レンタル等の単価は低く、利用人数が多くても、収入増に結び付きにくいいため、収入額の多い置艇、船具ロッカーや自主事業を工夫し、利用者満足度向上させることでリピーターを増やし、利用者数及び利用者収入の増加をめざす取り組みを進めていきたい。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用者稼働率については自然学校等学校行事により増加している。しかし、利用料金収入は、昨年度より増加しているものの目標に届いていない状態である。

施設維持管理業務においては、老朽化が進む中、委託業者と職員が連携し清掃にあたり、警備に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数等は、コロナ禍前の水準には回復していないが、昨年度に比べ規制が緩和されたこともあり増加している。カヌースクールの講座利用者アンケートで、もっと広報をして欲しい・受講の機会を広めてほしいという意見があった。来年度以降、施設の利用者を増加させるためにも、自主事業のPRや周辺地域への施設の周知を行い、利用者の増加に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	B	S		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	建物内清掃・屋外ゴミ処理・河川敷漂着ゴミ処理・公苑全体環境美化	日常清掃業務業者委託年240日、それ以外は職員が清掃。川岸漂着一斉清掃。(年間多量の漂着ゴミは、随時職員で回収した)。ごみ収集・運搬・処理は業者委託週1回。産廃処理随時実施。	○	○
	設備保守管理	電気工作物保守、浄化槽維持、水質検査、冷凍機保守、空調保守、濾過機保守、救助艇・カッター保守、プール濾過器保守、受水槽清掃、ガスヒートポンプ保守、定期清掃、消防用設備保守点検	電気工作物保守及び浄化槽維持管理は毎月、水質検査年1回、空調保守を空調設備総合点検として年4回、濾過機保守年2回、救助艇・カッター保守、受水槽清掃、ガスヒートポンプエアコン保守、クレーン保守、定期清掃を年1回、消防用設備保守点検を年2回実施。	○	○
	植栽管理	除草・芝刈り、高木、低木剪定、除草、施肥、目土・植樹	4月～10月の期間業者委託した。センター広場の公苑内の芝刈り等芝生管理、夏期スロープ付着藻の除去作業、強風、降雪による樹木の枝折れの等撤去は職員で実施。	○	○
	警備	業者委託により機械警備実施	とどこおりなく実施。	○	○
	小規模修繕	利用者の安全に関わるものを最優先に実施 施設維持に関わるもの、毎年整備が必要なものを実施	プールサイド滑り防止塗装修繕、駐車場区画白線引き直し工事、ポータヤード池浚渫工事、カッター船台修繕など。	○	○
	法定点検の実施	定期的な巡回点検の実施。カヌー・カッター等備品の点検整備。救助艇の点検整備。	コロナ感染防止の観点から受付方法を1ヶ所にし、利用者の健康状態チェック体制を強化。 雷検知システムによるリアルタイムでの気象情報確認、インターネットによる天候状況の監視、レスキュー要員の適切な配置。カッター気密テスト、カヤックの更新、救助艇の点検整備を実施し利用者の安全に努めた。	○	○
運営業務	開館日・開館時間等	5月～10月無休、12月30日、1月2日開苑	計画どおり開苑・営業	○	○
	公共性・公平性の確保	自然学校利用におけるインターネット申し込みを活用した利用調整	自然学校は180校の申し込みがあり143校が実施(悪天候中止6校・キャンセル31校)	○	○

	各種事業・プログラムの実施状況	美術館展覧会3事業、スポーツ事業21事業、各種大会2事業 計26事業を計画。	美術館展覧会3事業、スポーツ事業21事業(内、雨天中止イベント2)、各種大会2事業を計画どおり開催。延べ 21,781 名の参加者であった。	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査予約サイトクチコミ等)	利用者アンケート 施設受付、美術館内にて実施 じゃらん、アソビュー 事業終了後のサイトからのクチコミ	随時実施 管理・運営に関するアンケート 1 スタッフ:80%(大変満足・やや満足) 2 施設・設備・展示・教室 :85%(〃) 高評価のクチコミ多数	○	○
利用状況	利用者数	[R3年度:計 46,289人] プール 5,171 スケート 4,487 ボートヤード 17,337 センター広場 13,288 美術館 4,019 展示室 1,158 会議室 117 その他 712	[R4年度:計 74,350人] プール 5,142 スケート 5,194 ボートヤード 24,900 センター広場 25,045 美術館 6,856 展示室 1,312 会議室 545 その他 5,356	○	○
	施設稼働率	R3年度稼働率 プール専用 3.5 スケート専用 13.7 展示室 50.0 会議室 0.4(単位%)	R4年度稼働率 プール専用 2.1 スケート専用 19.9 展示室 100 会議室 1.4(単位%)	△	△
収支状況	収支計画と実績	R3指定管理料 101,141千円 利用料金収入 7,077千円 自主事業収入 2,611千円 その他手数料収入 389千円 計 10,077千円	R4指定管理料 96,613千円 利用料金収入 7,460千円 自主事業収入 4,659千円 その他手数料収入 432千円 計 12,551千円	○	○
	経費節減に向けた取組	電気料金の入札を実施し、新電力会社を選定する。	電気料金の入札を実施、間際まで検討があったが、昨今の状況から結局応札者がなかった。日々の消灯に努めるなどで節電。	△	△
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の声を聴き、施設運営に生かすため、チェックボックスによる、答えやすいアンケートの実施。	利用者・受講者アンケートやサポーターへのアンケート実施などにより苦情・要望等の把握に努めた。	○	○
	危機管理体制の確保	救急救命等講習を実施。気象状況等の把握。消防訓練、避難誘導、消火訓練。ボートヤード救助訓練を実施。	救急救命講習会、消防訓練及びカヌー利用時レスキュー訓練を実施した。	○	○
	県・関係機関との連携	豊岡市消防本部への消防計画書提出・連絡。市町及び小中学校、観光協会、城崎温泉旅館組合への広報協力依頼。	事業広報活動を計画通り実施した	○	○
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

一昨年に引き続き、感染症拡大防止対策を実施しながらの施設運営であった。自然学校については本年度もコロナウイルス関係により、予約をキャンセルする団体が多くあり、利用人数、利用料金収入に大きな影響があったが、一般ファミリー層をターゲットにした「カヌー・カヤック・SUP お手軽体験」(約 70 日開催)に大きな反響があり、京阪神から多くの参加者を迎え入れることができた。これにより、自主事業としては過去最大の参加数となり、総合的には、おおむね順調な運営ができた。

次年度も、自然学校等の団体利用と一般個人を対象にした自主事業のバランスを取りながら、利用者ニーズにあった事業を展開し、利用者の満足度を向上させる取り組みを進めていきたい。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県立スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用者稼働率等は、前年より増加したものの、新型コロナウイルス流行前と比較すると減少したままであった。また、自然学校利用についても、180校申し込みがあったが、キャンセル等により143校の実施にとどまった。

アンケートを随時実施し、その内容をその都度事業実施に活かした結果、アンケートでは8割程度が大変満足・やや満足となり、利用者のニーズに十分応えている。

施設維持管理業務においては、委託業者と職員が連携し清掃にあたりとともに、年数回の設備保守点検を行い利用者の安全を優先した取組をしている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数及び利用者稼働率等については、新型コロナウイルス感染対策が緩和されたこともあり、前年に比べ増加している。来年度以降はアフターコロナに対応し、今年度反響のあった事業内容を更に工夫するなど、利用者人数等の回復に努めてもらいたい。

施設維持管理業務においては、利用者の安全を優先した取組をしているが、利用者人数等の回復により予期せぬ事故増加すると予測されているため、更なる安全対策に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 4 年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立弓道場	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	施設の環境を維持し、快適な環境を保つため、清掃作業を行う。	日常的に清掃を実施した。	◎	◎
	設備保守管理	日常管理業務に加えて、法定点検、定期点検等を行い、性能を維持する。	県有建築物の定期点検の実施を適切に行うことができた。	◎	◎
	植栽管理	芝、樹木の管理等。	芝刈り、除草、剪定を随時実施。利用者からは気持ちよく弓道ができる環境であるとの声が多い。	◎	◎
	警備	施設内の秩序を維持し、事故、盗難、破損等の犯罪及び火災等の災害の発生を警戒・防止し、財産の保全を図るとともに、利用者の安全を守るために、保安警備業務を適切に行う。	機械警備、巡回、出入管理、車両誘導、交通整理、防災監視盤による監視、緊急連絡及び処理、警戒機器の保守点検を業者委託により随時適切に行った。	◎	◎
	小規模修繕	専有部分における建築物等について、不都合の無い状態を維持し、かつ美観を維持する。	施設の老朽化が目立っており、令和4年度は遠的場の防矢ネットの本体、ワイヤーの修繕を急遽行った。 日々の点検において、不都合が見られる箇所は即座に修繕を行い、利用者に不備が無いよう対応した。	◎	◎
	法定点検の実施	法定点検ほか、職員による施設、設備、備品の安全点検を励行し、利用者の安全確保を図る。	消防点検については、業者委託を行い適切に実施することができた。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日は月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/29 から 1/3 まで、開館時間は9時から17時まで。	左記の開館時間に加え、休館日でも特に開館が必要と考えられる競技会等では、臨時開館に備えた。また、大会等で、利用者からの希望に応じ、利用時間を延長した。	◎	◎

	公共性・公平性の確保	原則として、専用利用は受付順での利用としている。	計画通り実行できた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	年間2回の講習会を実施。1講習150分とし、初心者教室10回(5日間)の講習開設する。	専用利用の少ない時期を選び、講習を行っている。どちらの講習会も応募者は多数に上り、人気の講習会となっている。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	弓道教室参加者にアンケートを実施する。	各講習会の満足度は高く、弓道に親しむ機会の提供に今後も務めていく。	◎	◎
利用状況	利用者数	年間で約2万人の来館を目標とする。 [前年度:18,349人]	専用利用:20,863人 共同利用:1,012人 講座利用:377人 その他:1,520人 合計:23,772人	○	○
	施設稼働率	弓道場専用利用75%を目標とする。 [前年度:73.8%]	専用利用:77.3% 中でも、土曜日は92.0%、日曜日は93.9%であり、高い稼働率となった。	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	収入 指定管理料、利用料金、講座受講料、自主財源 支出 人件費、維持管理費	収入 指定管理料 6,531,000円 利用料金等収入 2,427,659円 受講料収入 524,000円 自主財源 5,092,614円 合計 14,575,273円 支出:人件費 7,474,517円 維持管理費 7,100,756円 合計 14,575,273円	△	△
	経費節減に向けた取組	事業収入の確保や、施設維持管理を適切に行い、コスト削減、環境負担低減に努める。	利用状況に応じたこまめな節電・節水や、利用者への掲示及び呼びかけの実施を行った。また、職員においてもコスト削減意識を持って業務にあたることを意識した。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者から寄せられる様々な苦情要望に対しては、迅速かつ適切に誠意ある対応を行う。	事前打合せや、利用者からの聞き取りによる情報により、トラブルの防止と再発防止に努めた。	○	○
	危機管理体制の確保	災害発生時の対応、緊急連絡先の周知の徹底を図る。急病者への迅速な対応等。	台風等による館の使用状況に対する利用者への対応では、緊急連絡網の活用により適切に対応できた。	◎	◎
	県・関係機関との連携	兵庫県教育委員会事務局体育保健課との連携を図る。	毎月の利用料金並びに利用状況の報告に加え指定管理事業報告書の提出等、その他の連絡事項も随時報告できた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	専門性の高い業務については再委託を行う。	清掃、機械警備、消防点検、インターネットの保守など専門性の高い業務については再委託を行った。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

今年度より弓道場の付帯施設の指定管理も担うことになったが、大きな混乱もなく運営を行うことができた。弓道場の専用利用料金については、条例の範囲内での利用料金の値上げを行い、利用料の確保にも取り組んだ。合わせて、最低限の人員配置による人件費の抑制、維持管理費の経費削減等も努力はしているが、今年度の自主財源充当額は **5,092,614** 円となり、健全な経営が難しくなっている状況である。来年度も引き続き経費削減・利用促進の工夫・改善等を行いつつ、指定管理料に見合った運営をしていく必要がある。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立弓道場	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用者稼働率については目標の達成が来ている。利用料金収入においても付帯施設新設及び令和4年度からの利用料値上げにより大幅に増加した。

施設維持管理業務においては、老朽化が進む中、職員による丁寧な日常清掃、警備に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数及び利用者稼働率等については目標の達成が来ていたが、各弓道関係団体と連携するなど、目標値自体の引き上げを行い、更なる利用者数等増加に努めてもらいたい。

運営業務において、今年度も大会等で利用する利用者から要望に応じ、臨時開館するなどし、利用者のニーズに応じた運営が来ている。引き続き利用者の意見を取り入れ、更なる事業を展開するなど、利用者満足度を向上させる工夫に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	A			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立奥猪名健康の郷	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	奥猪名みらい創造プロジェクト 国際ライフパートナー株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物を常に清潔な状態を維持し、快適性を高めるため、日常清掃、定期清掃、臨時清掃を計画的に実施する。	清掃担当者を適正に配置し管理水準に沿った清掃を行った。また、建物全体の窓ガラスの清掃、施設内の床清掃を日常とは別に、臨時で実施した。また、お風呂の天井や壁を1週間毎に高圧洗浄を掛けており、天井のくすみや壁の汚れがなくなっている。ただし、施設の老朽化もあり修繕必要箇所がみられる。	○	○
	設備保守管理	電気設備、給水設備、排水設備、消防設備、浴室管理、テニスコート、体育館、管理棟などの点検並びに修繕の実施。	保守点検を適切に行っており、本年度も建築物の定期点検を、社内資格者による自主点検を年1回行い細部の点検が実施できた。ただし、施設の老朽化に伴い要修繕箇所がみられ、その対応に苦慮したが管理は上手く保たれた。	○	○
	植栽管理	施設内の草刈、高木、低木の剪定、雑木の伐採。	施設職員により、景観が保たれるよう随時草刈りの実施、高木や低木の剪定を実施した。また、本年も台風の影響により倒木や木の枝が折れてしまったが、撤去や剪定を行ったことにより、景観が保たれた。	○	○
	警備	利用者の安全を第一とし、危険予知と早期発見に努め、施設内の巡回点検を行う。	施設の要所に設置した、4台のカメラにより24時間録画監視体制を敷いている。また、職員による利用者への声掛けや巡回は継続して行っていることにより、大きな事故等もなかった。	◎	◎

	小規模修繕	機能、性能の劣化により使用目的に耐えられない状態になる前に、早期に対応策の検討を行い、修繕計画を策定する。	厨房内トイレ洗浄器新設工事 280,500 円 2 番人工芝テニスコート修繕工事 2,475,000 円 給湯回路安全逃し弁増設工事 247,500 円 汚水処理施設ろ過ポンプ交換工事 158,400 円 ラインポンプ取替工事 200,000 円 食堂ロールカーテン修繕修繕工事 682,000 円 ロッジ棟前防火水槽採水口レンガ修繕工事 746,900 円 他	◎	◎
	法定点検の実施	施設管理運営に必要な諸法令の法定点検を行い、円滑な運営を保持する。	消防用設備等点検委託(機器点検) 66,000 円 貯水槽・高置水槽清掃消毒他委託 277,000 円 簡易専用水道定期検査委託 18,700 円 消防用設備点検委託(総合点検) 77,000 円 防火対象物点検委託 38,500 円 前田温水ヒーターばい煙濃度測定委託 88,000 円 他	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	年中無休開館: 9 時～21 時 30 分 日帰り入浴: 11 時 30 分～21 時 30 分	年中無休開館: 9 時～21 時 30 分 日帰り入浴: 11 時 30 分～21 時 30 分。	○	○
	公共性・公平性の確保	全ての利用者に対して公平かつ適切なサービスを提供する。	予約受付については、毎月 1 日に抽選制を導入しており、より公平に幅広い利用者に使って頂けるよう配慮した。	○	○

	各種事業・プログラムの実施状況	幅広いプログラムメニューで施設の活性化を目指す。	本年度も、野外活動事業のみならず、多種多様な自主事業を実施しました。事業のPRについては近隣の各小学校や、自治会にチラシを配布すると共に、町内及び近隣の公共施設の窓口に設置をして頂いた。また、フェイスブックや町の広報紙民間新聞紙への掲載による参加者の獲得を行ったが、まだまだコロナウイルスの影響により参加者が少ない事業や、中止せざるを得ない事業もあり大変残念であったが、事業参加者は、コロナ禍で実施して貰った事に大変喜んで頂けた。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	宿泊利用者や自主事業参加者にアンケートを実施し、利用者・参加者のニーズの把握に努める。	自主事業のアンケート結果は総じて好評であった。宿泊者にあっては、コロナウイルスの影響や、昨年の大規模修繕工事等による休館により宿泊客が遠のかれたのか、以前の様な宿泊客数を獲得することが出来なかった。	○	○
利用状況	利用者数	対昨年度日増加 令和元年度実績 117,710人 令和2年度実績 72,484人 令和3年度実績 39,414人	令和4年度実績 95,216人 本年度も、大規模改修工事等による休館の影響や、コロナウイルスの影響で、前年度より増加したものの、コロナ禍前8割程度の回復となりました。 入浴客は、年々増加の傾向にありましたが、こちらも大規模改修工事等による休館の影響や、コロナウイルスの影響により、コロナ禍前の水準までは回復となりませんでした。	○	○
	施設稼働率	対昨年度増加 令和3年度実績 和室：19.5% ロジ棟：8.9% 体育館：19.8% 集会室：3.7% テニスコート：15.1%	令和4年度実績 和室：10.4% ロジ棟：13.3% 体育館：23.0% 集会室：3.1% テニスコート：16.7%	○	○

収支状況	収支計画と実績	令和3年度実績 利用料金収入:7,231,680円 その他収入:1,254,465円	令和4年度実績 利用料金収入:13,578,480円 その他収入:3,700,714円	○	○
	経費節減に向けた取組	節電、節水などの利用者への啓蒙や、老朽部分の修繕による、経費の節減対策。	草刈や樹木の剪定、また小規模修繕については積極的に職員で行った。 弊社のISO9001による環境マネジメントに則し、環境マネジメント教育、訓練を実施し、環境負荷逓減に取り組んでおり一部経費の節減に繋がった。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者アンケートに加え、ご意見箱を設置し利用者からの、不満点を把握する。	利用者からの要望をより細かく受け止められるように、ご意見箱の設置とアンケートを実施した。両方とも多数の意見をいただいております。利用者のニーズ把握がしやすかった。	◎	◎
	危機管理体制の確保	「利用者の安全を第一」に考え、安全・安心の対応に努め、「緊急事態は起こり得るもの」ととらえ、危機管理マニュアルを策定。	自然に恵まれた立地と野外活動施設という観点から、天候の動向にも気を配り、危険を察知した場合は利用者に注意喚起を行った。 異常発生時には危機管理マニュアルに基づいた行動が取れるよう職員に周知を図った。 また、有事の際を想定し、消防訓練を行い常に職員が危機感を持って行動できるよう周知徹底を図った。	◎	◎
	県・関係機関との連携	報告・連絡・相談を密にし連携体制を築き上げていく。	管轄の猪名川消防署、川西警察署、木津駐在所、猪名川町役場、猪名川町水道課や地元の方々との連絡を密にし、日々情報の収集を行った。	◎	◎
	業務の再委託の状況	当該施設の食事提供に、協力企業として野外活動施設で、アレルギー対応を良く分かっているTSKサービス(株)と提携し、ニーズに合った食事提供を行う。	大規模改修工事等の開館後、コロナウイルス等の影響により宿泊客のキャンセルが多く、十分な食事の提供が出来なかったが、食堂開館日に入浴客や一般来客者に喜んで頂ける様、新たなメニューの提供を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 総合的な自己評価

- ・地元自治体、近隣自治体及び各種団体への啓発や民間新聞紙への掲載、また SNS 利用により利用者の獲得を行っているが、本年度もまだまだコロナウイルスの影響があり、前年度より増加したものの、コロナ禍前の水準以上に来客者増が見込めなかったのが大変残念でした。
その他は、施設老朽化に伴い修繕の必要な部分があるものの、安定した管理体制のもと適正な管理運営を行うことができた。

2 来年度の取組目標

- ・新型コロナウイルス感染対策も緩和されようやく元に戻る兆しが見えてきたことから、コロナ禍前の集客数を取り戻すため SNS や紙媒体での自主事業の PR や周辺地域・各種団体へ当施設の啓発を行い利用者の獲得を図ると共に、昨年度に増して当施設の認知度 UP 及集客数の増を図る。

3 課題

- ・大規模改修・計画修繕工事を実施して頂いたが、多くの不具合が出てきており日常の管理に苦慮している。また未改修部分は経年劣化によりかなり老朽化している。
未改修部分の修繕工事を行わないと劣化が進めば修繕費用も多額になることから、早急に修繕工事を実施する必要がある。
- ・今まで沢山の自然学校を受けて頂いていた、青垣町にある「丹波少年自然の家」（阪神 7 市 1 町及び丹波地域で構成されている一部事務組合）が解散されることになり、令和 5 年度の自然学校の申し込み校が当施設に多くあり、抽選を行うこととなってしまう、近隣校を落とすこととなってしまうことは大変残念である。なお、令和 6 年度も沢山の申し込みを頂いている状況であり、これから毎年この様な事が起こると思われる。
また、自然学校を多く入れるとお風呂が貸切となり一般の入浴客が入れなくなることから、遠のく可能性がある。

4 その他

- ・施設内及び施設周辺に位置する、民有地の取得を願いたい。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立奥猪名健康の郷	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	奥猪名みらい創造プロジェクト 国際ライフパートナー株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用者稼働率等は前年度から2倍以上に増加している。しかし、新型コロナウイルス流行前の水準までは回復することができなかった。

施設維持管理業務においては、日常清掃、設備点検、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

今まで自然学校を受け入れていた県内施設が解散することにより、自然学校の受け入れが増え、兵庫県全域より利用者が集まった。来年度以降はこれらの認知度上昇をきっかけに一般利用者数等の増加に努めてもらいたい。

危機管理体制確保においては、危機管理マニュアル策定や消防訓練を行うなど有事の際を想定した対策が行えている。引き続き、自然災害が多い立地のため施設周囲まで気を配った運営をしてほしい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 4 年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立神戸西テニスコート	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	(株)ITC	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	テニスコート・駐車場・クラブハウス・通路の日常清掃を実施し、快適な利用環境の確保に努める。	○	○
	設備保守管理	施設全域の日常点検と定期点検を適切に行い安全快適な利用環境の確保に努める。	○	○
	植栽管理	施設の美観と快適な環境を保つため、適切な植栽管理を行う。	○	○
	警備	防犯・防火・設備監視のために、施設の夜間・休館日の機械警備を行う。	○	○
	小規模修繕	利用者の安全確保と快適な利用環境の維持を目的に不具合の生じた箇所を適宜修繕する。	○	○
	法定点検の実施	各種法定点検を適時行って施設維持を行います。	○	○

運営業務	開館日・開館時間等	開館時間は9:00～21:00。5月～10月は22:00まで延長と、土日祝日の7:00～の早期会館実施。休館日は毎月第1火曜日・1月1日から同月3日及び12月29日から31日まで。	・第1火曜日については、コート整備終了後に営業を行った。	○	○
	公共性・公平性の確保	「公の施設は県民の共有財産である」という認識とユニバーサル社会の実現という視野に立ち、平等・公平・公正な利用を促進する。	インターネット予約システムにより、コートの空き情報は常に公開され、土日祝日・平日ともに抽選予約により、より公平な利用管理を行った。インターネットの使えない方には窓口対応をして、公平性を保った。また、スクール利用は最大2面に絞り、一般利用者の利用機会を減らさぬよう配慮した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	<p>自主事業として次の各事業を実施する。</p> <p>(事業名)</p> <p>収入見込(単位 千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テニススクール … 26,592 ・商品販売 … 2,917 ・自販機 … 785 ・その他 … 1,183 <p>計 31,477</p>	<p>自主事業の収入は当初の計画の90%と、コロナ流行によりテニススクールの集客に大きく影響した。</p> <p>(事業名) 収入実績 (単位 千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テニススクール … 24,888 ・商品販売 … 2,575 ・自販機 … 445 ・その他 … 533 <p>計 28,441</p> <p>テニススクールに関しては、まだまだコロナ感染防止策による制限により、お客様の外に出掛ける意識が薄く、新規者獲得に苦戦しました。商品・自販機・その他(イベント)なども同じ影響で減少した。</p>	△	△
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	アンケートボックスの設置や、スタッフによる積極的なコミュニケーションを通じて、利用者の要望・意見に対して、注意を払います。	<p>毎年アンケート調査を行いますが、本年度はコロナウイルス感染予防の観点から、アンケート用紙やペンの設置は危険と判断し、調査を中止した。</p> <p>アンケートは実施できませんでしたが、直接スタッフへの苦情などはほとんどなく、様々なご意見には都度対応をした。ご満足いただけていると評価する。</p>	○	○

利用状況	利用者数	<p>体育・スポーツの振興を通じ、青少年をはじめ広く県民の心身の健全な発達に寄与するための拠点となる施設になるよう運営を行う。</p> <p>[前年度:60,527人]</p>	<p>本年度総利用者数は 61,887人で、昨年実績 60,527 人に対して、102.25%と微増に転じました。コロナ前の元年度と比較すると、92.7%で依然少ない状況である。</p>	○	○
	施設稼働率	<p>施設の利用率向上のために広く県民の皆様に周知いただく。</p> <p>[前年度:83.5%]</p>	<p>令和4年度施設稼働率は、80.9%で前年の 83.5%から2.6%減少しました。</p> <p>9月以降の稼働率の低下が大きく、コロナ感染の減少に伴い、テニス以外の選択肢が出てきたと考えます。</p>	○	○
収支状況	収支計画と実績	<p>収入 …46,907千円</p> <p>・利用料収入 …15,430千円</p> <p>・事業収入 …31,477千円</p> <p>支出 …46,907千円</p> <p>(県納付金 5,584千円含む)</p>	<p>収入 …43,185千円</p> <p>・利用料収入…14,744千円</p> <p>・事業収入 …28,441千円</p> <p>・補填指定管理 0千円</p> <p>支出 …43,185千円</p> <p>(県納付金 5,584千円含む)</p>	○	○
	経費節減に向けた取組	<p>節電や消耗品の管理を強化してコスト削減を図る。</p>	<p>光熱水費は計画に対し849千円の削減ができました。事務消耗品費、教材費、雑費で352千円削減できましたが、修繕費324千円超過したのでコスト削減は僅かでした。</p>	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	<p>利用者からの苦情要望に対しては、迅速かつ誠意ある対応を行う。</p>	<p>利用者からの苦情要望については、窓口・電話・Eメールなどで随時受け付け、即時責任者へ報告し迅速に回答をし適切に対応をした。</p>	○	○
	危機管理体制の確保	<p>緊急時の対応マニュアルについて全スタッフが熟知し行動出来るよう、研修を実施。</p>	<p>消防点検(年2回)・高圧受電設備点検(月1回)AEDパット・バッテリー交換など緊急時に備えた。また、全スタッフAED講習を受講するなど研修でも危機管理意識を高めた。</p>	○	○
	県・関係機関との連携	<p>管理運営に生じた重要な事項について、速やかに県教育委員会に報告し指示を受けるなど、連携を図る。</p>	<p>重要事項については必ず県教育委員会と連絡・報告をおこない指示を受けた。また、緊急時連絡体制表を作成し、スタッフに意識付けをした。</p>	○	○
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

自主事業であるテニススクールの生徒数をコロナ以前の300人台にまで戻せるよう、募集活動の強化を図るとともに、在籍者へのサービス向上に努めたい。

令和4年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立神戸西テニスコート	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	(株)ITC	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

施設維持管理業務においては、職員による日常清掃、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。

運営体制としては、利用者からの要望を窓口・電話・Eメールで随時受け付け、迅速に対応している。また、定期的に施設の点検を行い、全スタッフに AED 講習等の研修を実施することで危機管理意識の向上に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数等については、昨年度より増加しており、コロナ禍前の水準と比較すると 92.7%と概ね回復できている。さらに、PR活動に努めるとともに、感染症予防の観点により中止していたアンケートを行うなど、利用者の意見を取り入れ、既存利用者へのサービス向上にも努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である